

石川県能登町立 柳田小学校



タブレット×大型TV×eライブラリの3点セット ～子どもの思考を止めない工夫～

教員用にタブレットが導入されている石川県能登町立柳田小学校では、無線でタブレットの画面をミラーリングできる環境を活かし、普段からICTを積極的に活用しています。

今回は、eライブラリのドリルや解説教材を利用した算数の授業とその工夫をご紹介します。

解説教材とペンツールで強調



算数

4年：わり算の筆算（2）

-わる数が2けた

今回、薬師先生は、算数「わる数が2けた」の授業で、10の束を分かりやすく説明するために、**eライブラリの解説教材の図版を大きく投影し、教材提示ツールでマーキングして**要点を強調していました。

数字を量で捉えられるよう、**図を使って説明**することで、2けたの割り算の仕組みを考えさせていました。

授業の主役は子どもたち

デジタル（ICT）とアナログ（板書）のメリハリをつけることで、同じような問題でも**飽きさせず**、子どもたち全員が、アクティブに発言、発表をしていました。

ねらい

主体を子どもたちに置く



▲ ドリルの問題を提示しています。（導入）



▲ 板書・発表中は、大型TVを消しています。（展開）

eライブラリの問題が大型TVに映し出されると、子どもたちは**次々に挙手**をして発言していました。教科書の問題を黒板の前で発表する際、発表者は、「話します」と始めて**聞き手の注目を引き付け**、発表の終わりに「どうですか」と問いかけることで、**聞き手に参加意識をもたせて**いました。

インタビュー 子どもたちの意見を第一に尊重しています。

4年担任の薬師梨絵先生にお話を伺いました。柳田小学校は、玄関からすぐにパソコン教室が設置されており、朝学習としてeライブラリで学習してよいことにしています。子どもたちは**eライブラリに慣れている**ので、授業でeライブラリを映して使うことは、子どもたちにとって**違和感がありません**。授業でもすんなり使うことができ、ドリルを映し出すと、**本当によく手が挙がります**。今回は、問題を**自主的に答えやすくするため**、eライブラリのドリルや教材を映して出題しました。一方で、前に出て発表させる際は、**発表する子どもに注目を集め、問題の解き方や発表方法に耳を傾かせる**ため、一度大型TVを消すようにしています。子どもたちの自主性を引き立たせるためにICTをうまく利用することを心掛けています。

確認問題を利用して、問題演習を補充



▲ 確認問題を全員で解いています

今回の単元では、教科書の文章問題例題数が1問のみだったため、**補充にeライブラリの確認問題を利用しました**。ドリルを提示した時と同様に、**子どもたちの手が挙がり、次々に答えがめくられていきました**。

今回の確認問題では途中式を穴埋めする内容でした。**問題文から、どのように式へ導けばよいか、解答のプロセスが記載されている**ため、子どもたちはまとめとしてしっかり理解できている様子でした。

先生の工夫

- 子どもたちが自主的に問題に取り組めるよう、いつも子どもたちが使っているeライブラリのドリルを映して、**授業へ参加する意識を高める**。
- 2けたで割る（束でまとめる）という概念を**解説教材の図を利用して**、わかりやすく説明する。
- 子どもたちの**発言をできる限り増やす**ため、教科書の問題だけでなく、eライブラリのドリル問題や確認問題を利用して**問題数を確保**させる。



▲ ドリル問題を解答する様子

児童の様子

- ドリルの問題が映しだされると、「**答えたい**」「**発言したい**」という意欲が沸き、問題ごとにほぼ全員が毎回挙手をしていました。
- ドリル・教科書・確認問題、と発言する機会が多く、**全員が一度以上発言することができていた**。
- 自分で解く、挙手する、発表する、聞く、答え合わせする、というサイクルを常に行うことで、**思考を止めることなく集中**できていた。



▲ 確認問題を説明しながら発表する様子

今後の展望 角間久美子校長先生にお話を伺いました。

本校では、児童がいつでもeライブラリを使用できるように、朝の登校時から下校時まで、パソコン教室を開放しています。児童は、ドリルをクイズ感覚で行い、**既習問題をどの程度解くことができるかに挑戦**しています。正誤判定が瞬時にわかるので、児童にとっては**自分の学びが明確であり、次の段階にも進めるため、自ら学ぶ主体的な姿勢の育成**に繋がっています。

今後の展望としては、eライブラリをはじめ、授業におけるICT活用を充実させることです。現在、eライブラリを授業の導入や終末の適用問題において活用していますが、児童が、話し合ったり、考えを練り上げたりするための有効な手段として、ICTをこれまで以上に積極的に活用できればと思います。